

世田谷村日記

石山修武

六月二十九日

昨夜は深夜より雨が降り始め、ようやく空気が冷んやりしてきた。世田谷村には冷暖房らしきが無いので、天候の変化には流石に敏感になった。十時前京王稲田堤、星の子愛児園増設部竣工検査。その後厚生館で近藤理事長にお目にかかる。近藤さんは厚生館にパッションフルーツ、パイア、園庭部分にあげび、高山からいちいの樹と、植物を子供と一緒に楽しむうとしていて、いい感じである。十七時過研究室に戻り、毎日新聞六車氏と相談。少年野球と地域づくり、早稲田大学野球部の組み合わせで何か出来るか。十九時過高田馬場原兵衛で六車氏と会食。佐藤健がイチロー物語を書くのに、イチローをオリックスにスカウトした名スカウト三輪田を六車氏が紹介した。それが、ここ原兵衛の、ホラ、そのカウンターのなんだと言う。三輪田氏は往年の早稲田野球部のサウスポー、大エースだった。三輪田の蔭に隠れて、名門高松一高出身の投手六車は遂に一度だけしか神宮のマウンドに上る事ができなかった。しかし三輪田はプロ野球では成功せず、スカウトに転身、誰も着目していなかったイチローを発掘する。イチローは今や大リーグのヒーローである。 つづく

六月三〇日

午前中杏林病院定期検診。午後大学。打合わせ多数。中川武先生。入江主任。三好シユターク大学院特別選考入試面接。十七時建築学科人事小委員会。偶然ではあったが、昨日と同じ原兵衛で。

今日は二階の座敷。昨日のつづきだが、原兵衛のカウンターに佐藤健、三輪田、六車が扁を並べている姿は、そのそれぞれを知る人間にとっては人生の縮図を示すドラマだが、知らない人にとってはただの呑み助のオッサン達であつたらう。何気ない日常に無数のこんな劇が秘されている。建築教室の集まりも実ワ、そうなのだ。何とか、建築学科の為に頑張りたい。

七月一日

七〇才から始めようと考えている、変な言い方だけれど遺作の構想を描き始める。人間は誰もが最後の作を何らかの形で残さざるを得ない。

十時四〇分大学院レクチャー。質疑応答。予想を超えて手が上がり仲々面白かった。これならば来週もう一回やってみよう。午後大隈会館打合わせ。十六時古市設計事務所相談。十七時研究室戻り。二〇時迄ひろしまハウスインポンペンを中心に打合わせ。近江屋で小食後世田谷村に戻る。